

1:1 預言者ハバククが預言した宣告。

1:2 主よ。私が助けを求めて叫んでいますのに、あなたはいつまで、聞いてくださらないのですか。私が「暴虐。」とあなたに叫んでいますのに、あなたは救ってくださらないのですか。

1:3 なぜ、あなたは私に、わざわざいを見させ、労苦をながめておられるのですか。暴行と暴虐は私の前にあり、闘争があり、争いが起こっています。

1:4 それゆえ、律法は眠り、さばきはいつまでも行なわれません。悪者が正しい人を取り囲み、さばきが曲げて行なわれています。

1:5 異邦の民を見、目を留めよ。驚き、驚け。わたしは一つの事をあなたがたの時代にする。それが告げられても、あなたがたは信じまい。

1:6 見よ。わたしはカルデア人を起こす。強暴で激しい国民だ。これは、自分のものでない住まいを占領しようと、地を広く行き巡る。

1:7 これは、ひどく恐ろしい。自分自身でさばきを行ない、威厳を現わす。

1:8 その馬は、ひょうよりも速く、日暮れの狼よりも敏い。その騎兵は遠くから来て、はね回り、鷲のように獲物を食おうと飛びかかる。

1:9 彼らは来て、みな暴虐をふるう。彼らの顔を東風のように向け、彼らは砂のようにとりこを集める。

1:10 彼らは王たちをあざけり、君主たちをあざ笑う。彼らはすべての要塞をあざ笑い、土を積み上げて、それを攻め取る。

1:11 それから、風のように移って来て、過ぎ

て行く。自分の力を自分の神とする者は罰せられる。

1:12 主よ。あなたは昔から、私の神、私の聖なる方ではありませんか。私たちは死ぬことはありません。主よ。あなたはさばきのために、彼を立て、岩よ、あなたは叱責のために、彼を据えられました。

1:13 あなたの目はあまりきよくて、悪を見ず、労苦に目を留めることができないのでしょう。なぜ、裏切り者をながめておられるのですか。悪者が自分より正しい者のみをむとき、なぜ黙っておられるのですか。

1:14 あなたは人を海の魚のように、治める者のないほう虫のようにされます。

1:15 彼は、このすべての者を釣り針で釣り上げ、これを網で引きずり上げ、引き網で集める。こうして、彼は喜び楽しむ。

1:16 それゆえ、彼はその網にいけにえをささげ、その引き網に香をたく。これらによって、彼の分け前が豊かになり、その食物も豊富になるからだ。

1:17 それゆえ、彼はいつもその網を使い続け、容赦なく、諸国の民を殺すのだろうか。

神殿に仕えていたレビ人、ハバククに神様はみことばを託しました。ここでまずハバククはイスラエルが神様に従わず、暴虐様を行う様を訴えます。神様は意外な方法でイスラエルをさばくと言われます。イスラエルよりもっと悪い異教のカルデア人がイスラエルを攻撃するというのです。

それは理不尽なことのように感じますが、むしろ彼らから守られることの方が不思議なことで、それは神様の守りがあればこそなのです。現代の世の中にも攻撃してくる人や組織があるものです。私たちは主の守りがなければ生きていけないこと

を常に肝に銘じて、主に従うべきです。

ハバククはカルデア人がイスラエルを攻撃するということを聞いて、「悪者が自分より正しい者をのみこむとき、なぜ黙っておられるのですか。」と神様に訴えます。それは当然のようです。しかし人の悪は神様から見れば同じで、どちらがより正しいということはありません。イスラエルもまた悪者であるのです。

それは私たちも一緒に、「あの人の方が悪いのに」ということはできないのです。

またそれはカルデア人の悪がさらに明確になるためでもあります。主は悪をさばくお方です。そのさばきが正しいことを明らかにするためでもあるのです。

しかし主にはまだ深い御心があるかもしれません。ハバククは早まった考えで神に不満を言うよりも、「主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。」と主に目を凝らします。それこそが解決の道です。理解できないような出来事が起きるときには、主に注意を向けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

